

よみがえるチバニアン期の古生物

日時：令和5年8月1日（火） 10:00~12:00

場所：千葉県立中央博物館 講堂・特別展示室

参加者：32名（科学部セミナー含）

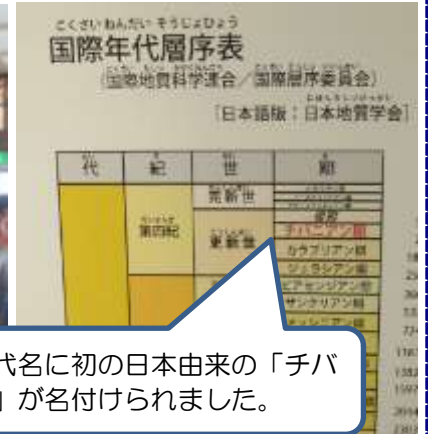
講師：千葉県立中央博物館 丸山 啓志先生



講師の丸山先生



丸山先生が展示を担当した展示物の内容を生解説していただきました！



地質時代名に初の日本由来の「チバニアン」が名付けられました。



チバニアン期の地層の剥ぎ取り標本です。



江戸時代に龍の骨と考えられていた化石です。



トウヨウムウの歯や下顎の化石



チバニアン期の海の古生物



このオオキトドの化石は中央博物館の大木研究員が世界で初めて発見しました。



丸山先生の研究紹介

【受講生の感想】

- 普段の学校の授業ではわからないことを展示とわかりやすい説明で教えていただけました。また、千葉の昔にこんなにも様々な物がいたことに驚きました。普段は遠い存在である化石を知るよい経験になりました。
- 知らなかったチバニアン期の生き物について知れてよかったです。また、解説もわかりやすく知識が増えました。とても面白かったので、機会があればまた行きたいです。
- 展示の説明もわかりやすく、展示を十分に楽しめました。タバストリーや骨格標本など、実物大の展示物がインパクトがあり、印象に残りました。吹き抜けの内側に貼ってあるステラーカイギュウがあんな大きな生態なのか、何故体の形があんなのかなど、非常に興味をもちました。ナウマンゾウなどの牙で、子供の内はどうなっているのか、またオスとメスとの違いはどうして生まれたのか、知りたいと思いました。
- もっと今とは全然違う生物がいたのだと思っていましたが、今いる生物と似たような生物がたくさんいたことがわかりました。生物が少しずつ進化していることが実感できました。
- 昔のチバニアン期に千葉県に現代では見られないアシカやゾウがいたことに驚きました。チバニアン期について、より知りたいと思いました。現代のシカとチバニアン期のシカの角の突起の数が違うことがわかりました。博物館に展示されている標本と動物園にいるシカの角を実際に見比べて、より角の形について理解したいと思いました。
- チバニアンは、時代で、時代の名前に「チバ」が入っていて驚きました。日本の地名、日本人の名前が新種の生きものについていて驚きました。私はトウキョウホタテが一番おもしろかったです。小さいころは、人差し指に乗るくらいのサイズで驚きました。驚くことが多くておもしろかったです。本日は、ありがとうございました！